

山口市（全域）

令和6年度

【地域の概要】

- 岐阜市の北部に位置し、耕地面積1,060㎡のうち田が809haを占めており、稲作が中心とした農業経営が行われている。
- 担い手への集積面積は317ha（集積率29.6%となっている）。近年は、農業戸数の減少と、従事者の高齢化が課題となっており、担い手や生産組織等の育成・体制強化へ向けた取組みが急務となっている。
- 人・農地プランが3地区（高富・伊自良・美山）で策定されており、令和6年度は同地区における地域計画の策定を進めた。

①取組開始前の状況や課題

農地の集積状況

- 各地域に存在する農振農用地内を中心に地域の担い手農家・法人を中心として水田の利用集積が行われている。
- 農振農用地内においても利用集積が進まない地域が存在する。
- 条件が不利な地域では借り手が付かない現状がある。

集積における課題

- 利用集積が進まない地域における地域の特徴や特性を洗い出す。
- 条件不利地で耕作放棄地となる恐れがある農地に担い手を結びつけるための条件の確認。

地域計画策定へ向けて

- 令和5年に土地所有者・担い手を対象とした「農業に関する意向調査」を1722人を対象に実施し、耕作の状況や今後の予定、後継者の有無等の把握に努めた。

調査結果については、地区ごとに集計を行い、地域計画の各会議における資料として活用した。

②取組内容

戦略会議（令和6年6月、8月）

- 担い手を集めた会議を開催する前に、関係者（市・県・JA・農業会議等）を集めた会議を開催し、目標地図の作成や、地域計画案について事前協議を行った。

連携会議（令和6年7月）

- 地域計画の地図作成における概要説明。
5年、10年後の未来を見据えて計画作成。
- 地域の農地管理の現状を、R5実施のアンケート結果から説明。
- 出席者をグループに分けて各グループに農業委員、農地利用最適化推進委員が入り、地域の問題点の洗い出した。

協議の場（令和6年10月）

- 地域計画へ農業者をどう位置づけていくか確認。現状の耕作地押し込んだ現況地図を活用し、地図への書き込み等を行った。
- 出席者をグループに分け、農業委員等が各グループリーダーとなり、地域計画の将来像に向けてどう近づくか話し合った。



連携の場



協議の場

③今後の展開と方向性

地域計画策定後の取り組み

- 5年、10年後の未来を見据えた将来像に合わせて、地域計画と目標地図を半年ごとに見直し、更新する。